

大学、高校の入試、合格発表では悲喜こもごもの光景が繰り広げられている。今週は琉大美工科の学生、研究生による展覧会を二つ。

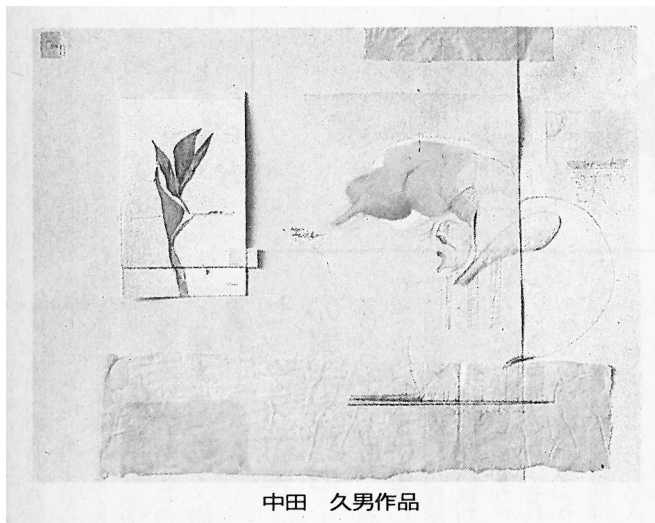
中田久男展 (17日~4月5日) 壁に掛けるのではなく、学術美術工芸科研究生展の三本にするつもりで作った」と人目。中田さんの初の個展。言うように、作品はダブロー色鉛筆、ガッシュ、テンペラ 仕立てではない。いずれも形などで、耳の形、植物の形などそのものの面白さを追求し、さしたる作品二十一点を展示している。

美術月評

4月

稲嶺 成 祐

中田久男展 下書きのおもしろさ



中田 久男作品

【中田久男展】 B4サイズほどの作品が、壁にピンで止められ、台の上にもかなりの数重ねられて相当数の出品である。それらは現在進行形という鉛筆による覚え書き風の横文字、人の顔や植物の部分の郷愁をもつて見返される資料デッサン、印刷物や切り取られた水彩画などのコラージュ、半透明の紙の貼付といった風にさまざまな手法を混在させて、下書きの面白さをそのものをねらった作品である。つまり、まよりのな

いバラバラな情報の集積の面白さをみせているわけだが、それらは現在進行形という鉛筆による覚え書き風の横文字、人の顔や植物の部分の郷愁をもつて見返される資料デッサン、印刷物や切り取られた水彩画などのコラージュ、半透明の紙の貼付といった風にさまざまな手法を混在させて、下書きの面白さをそのものをねらった作品である。つまり、まよりのな

(琉大教授)